

養護教諭の精神的健康度に関する研究（第1報）

Study of The Yogo Teacher's Mental Health Conditions (First)

上原美子*
Yoshiko UEHARA

中下富子**
Tomiko NAKASHITA

I 序論

近年の学校教育を取り巻く環境は、激しく変化し、子どもだけでなくそれに伴い、教員に対する期待と負担の増加からメンタルヘルスなど様々な問題が生じている¹⁾。教員の健康管理を行う所轄の行政機関においても相談機関を設置したり、個人情報に配慮されたメンタルヘルス診断を実施したりと様々な予防対策を行っている。しかしながら実際には、教員の全国の病気休職数は、1993年以降連続で過去最高を更新し、そのうちいわゆる「うつ病」やストレスによる神経症など精神疾患は、6割を占めるという実態がある²⁾。うつ病は、全人口の10～15%が生のうち経験するといわれる疾患で、現在、人口の4～5%が発症しているとされている³⁾。つまり、7人に1人が「うつ」の時代とされ、身近な問題として対策を講じる必要があると考える。一方、懸念されることとして、ストレスという言葉が人歩きし、多方面で使われ、ストレスの概念が混乱を生じている⁴⁾。笹原は、外的な圧力としてのストレスを「ストレッサー」と呼び、反応としてのストレスを「ストレイン」と呼ぶことが一般化されているという⁴⁾。しかしながら、ここでは、外的な圧力である刺激とそれに対する適応反応を総称として「ストレス」と使うこととした。

保健室の主たる執務者である養護教諭においても中央教育審議会答申や学校保健安全法の施行により、①校内及び地域の医療機関との連携を推進する上でのコーディネーターの役割 ②養護教諭を中心として関係教職員等と連携した健康相談、健康観察、保健指導の充実 ③学校保健センター的役割を果たしている保健室経営の充実 ④いじめや児童虐待など子どもの心身の健康問題の早期発見、早期対応 ⑤学級活動における保健指導をはじめ、ティーム・ティーチングや兼職発令による保健学習への積極的な授業参画など果たすべき役割が明確になった^{5) 6)}。とりわけ、先ほど述べた「保健室経営の充実」では、その「保健室」の位置付けも大きな変革を遂げている。

「保健室」は、昭和25年には、小学校保健実施要領において、厚生保健施設として位置づけられ、健康相談室と休養室を設置することが求められていた⁷⁾。昭和47年の保健体育審議会答申では、子どもたちを取り巻く状況は、健康問題の変化が指摘され、平成9年保健体育審議会答申においては、薬物乱用や援助交際、生活習慣病の兆候、感染症、いじめ、登校拒否等、児童生徒の心身の健康問題が極めて大きな問題と取り上げられている。

このことから、昭和33年に制定された学校保健法では、第6章 雑則 第19条の(保健室)「学校には、健康診断、健康相談、救急処置等を行うため、保健室を設けるものとする。」とされているが、その役割について、「いじめ、保健室登校等心身の健康問題で悩む児童生徒へのカウンセリングの実施など、役割の変化から保健室の機能を見直す必要がある」という指摘がなされ、平成21年4月施行の学校保健安全法では、(保健室)第1章 総則 第7条「学校には、健康診断、健康相談、保健指導、救急処置等その他の保健に関する措置を行うため保健室を設けるものとする。」とされた。

つまり、養護教諭の指導力並びにその他保健に関する措置として、保健室の主たる執務者である養護教諭の指導の幅が広がり、ここでも、これまでの保健室の学校保健活動センターとしての役割を十分に果たしてきた成果と今後の期待がうかがえる。

職業別の先行研究としては、西阪らは、幼稚園教師の専門性やストレスが精神的健康に及ぼす影響について、専門的成長が助長される環境とストレスに強い個人の特性の影響を検討している¹⁾。現場環境と個人のストレスに強い特性の有無が影響されるという結果に加えて、専門的成長の促進を課題としていた。また、吉野らは、研修医の精神的健康度の悪化から、労働時間の改善による睡眠時間と自由時間の増加による健康度の改善を示唆している⁸⁾。さらに、横山は、消防士は、ストレス反応の高さを指摘し、精神的健康度の筆頭に「自尊心」をあげ、自己対処能力を高めるためのストレスマネジメント教育やソーシャルサポート体制の強化を図ることが求めら

* 川口市立川口総合高等学校／埼玉大学非常勤講師

** 埼玉大学教育学部学校保健学講座

れていると示唆している⁹⁾。民間企業においても、全日本空輸（ANA）では、『ANA健康フロンティア宣言』を掲げ、ストレス診断、ストレス耐性研修、EAP（従業員支援プログラム）の導入、精神科医の活用などすでに積極的な対策を講じ、成果を上げている¹⁰⁾。しかしながら、鈴木は、心身の健康問題解決など多様化する役割、学校組織全体連携体制など養護教諭への期待が高まる現在、個々の学校組織レベルにおいて、養護教諭に対する認識と理解の低さや学校組織内での位置付けの不明確さなどから未だ改善に至っていないとしている¹¹⁾。

養護教諭の多くは学校に「人」という「人職種」である環境の中、例外ではないと考える。中島は、養護教諭は、学校組織文化、職場の雰囲気、校長のリーダーシップ等の影響を受けやすいという研究結果を報告し、養護教諭自身のこころの健康は学校運営にも大きな影響を与えるとについても過言ではないとしている¹²⁾。

現在、養護教諭の専門的健康度の研究はわずかであり、本研究は、養護教諭の専門職としての精神的健康度を明らかにすることを目的とする。

II 研究方法

(1) 対象

A県内現職養護教諭550名、教員養成大学学生155名

(2) 期間

平成21年12月～平成22年2月

(3) 調査方法

多項目選択回答形式による無記名自記式質問紙調査であり、配票調査法とした。

(4) 質問紙の内容

小塩・中谷・金子・長峰（2002）によって作成された「精神的回復力尺度」を用いた。¹²⁾

これは、21項目で構成されており、因子分析によって「新奇性追求」「感情調整」「肯定的な未来志向」の3因子に分類されることが確認されている。回答は、「いいえ」「どちらかというといいえ」「どちらでもない」「どちらかというとはい」「はい」までの5件法である。

(5) 分析方法

結果をExcelにデータ入力し、統計ソフトSPSS Ver14を用いて解析した。

次の項目について平均値を求めるとともに、t検定によって分析した。結果は5%未満を有意とした。

ア 現職養護教諭と教員養成大学学生との精神的健康度

イ 5年未満経験養護教諭と教員養成大学学生の精神的健康度

ウ 経験年数と養護教諭の精神的健康度

エ 学校種別と養護教諭の精神的健康度

オ 保健主事発令の有無と精神的健康度

(6) 倫理的配慮

調査票依頼時に下記について明記した。

ア 本研究の強力な任意であること。自由意思によって行われるものであるためアンケートに回答しなくても不利益をこうむることは切ないこと。

イ 回答や個人情報個人が特定できないよう統計処理を行い、結果の発表や出版に際しては、個人が特定できるような情報は掲載しないこと。

ウ 得られた情報は厳重に管理することを明記し、アンケートへの回答をもって本調査への同意とした。

なお、回収した質問紙は厳重に保管した。

(7) 用語の操作的定義

本研究においては、「困難をはねのける力」としての「精神的回復度尺度」を『精神的健康度』を測定する一つの方法をして使用した。

III 結果

1 対象の概要

分析の対象となる養護教諭の概要をTable 1にまとめた。

Table 1 対象の概要 (N=364)

教職経験年数	
1－5年未満	71
5－10年未満	47
10－20年未満	75
20－30年未満	118
30年以上	53

有効回答率は、現職養護教諭は、66.2%（364名）、教員養成大学学生98.7%（153名）であった。

2 現職養護教諭と教員養成大学学生との精神的健康度

表1のとおり、「4. 自分の感情をコントロールできる方だ」「20. 動揺しても自分を落ち着かせることができる」「9. 将来の見通しは明るいと思う」「21. いつも冷静でいられるように心がけている」は、現職養護教諭が有意に高かった。

「10. 自分には将来の目標がある」「7. 気分転換がうまくできないほうだ※」「6. その日の気分によって行動が左右されやすい※」「15. あきっぽいと思う※」「13. 怒りを感じるとおさえられなくなる※」は、教員養成大学学生が有意に高かった。

表1 現職養護教諭と教員養成大学学生の精神的健康度の比較

No.	尺度項目	経験年数	現職養護教諭 (n=364)	教員養成大学学生 (n=153)	
1	いろいろなことにチャレンジするのが好きだ		3.65	3.85	
2	つらい出来事があると耐えられない(※)		2.48	2.58	
3	困難があってもそれは人生にとって価値があるものだと思う		4.05	4.05	
4	自分の感情をコントロールできる方だ		3.75	3.42	*
5	慣れないことをするのは好きでない(※)		3.20	3.27	
6	その日の気分によって行動が左右されやすい(※)		2.58	3.43	*
7	気分転換がうまくできないほうだ		2.42	2.68	*
8	ものごとに対する興味や関心が強い方だ		3.77	3.73	
9	将来の見通しは明るいと思う		3.60	3.41	*
10	自分には将来の目標がある		3.74	4.24	*
11	新しいことや珍しいことが好きだ		3.99	3.98	
12	私はいろいろなことを知りたいと思う		4.16	4.29	
13	怒りを感じるとおさえられなくなる(※)		2.16	2.55	*
14	ねばり強い人間だと思う		3.70	3.56	
15	あきっぽいと思う		2.71	3.28	*
16	自分の未来にはきっといいことがあると思う		3.91	3.86	
17	新しいことをやり始めるのはめんどろ(※)		2.78	2.62	
18	自分の将来に希望を持っている		3.82	3.97	
19	自分の目標のために努力している		3.55	3.65	
20	動揺しても自分を落ち着かせることができる		3.60	3.24	*
21	いつも冷静でいられるように心がけている		3.91	3.63	*

注：(※) 印は逆転項目

t検定 * p<0.05

3 5年未満経験養護教諭と教員養成大学学生の精神的健康度

表2のとおり、5年未満経験養護教諭と教員養成大学学生の精神的健康度を平均値で比較した結果、「7. 気分転換がうまくできないほうだ」「21. いつも冷静でいられ

るように心がけている」の2項目が経験5年未満の養護教諭が高くなっている。5年未満の養護教諭は教員養成大学の学生に比べて、気分転換ができ、冷静さを保とうとしている。他の項目に差はみられなかった。

表2 5年未満経験養護教諭と教員養成大学学生の精神的健康度の比較

No.	尺度項目	経験年数	5年未満 (n=71)	教員養成大学学生 (n=153)
1	いろいろなことにチャレンジするのが好きだ		3.89	3.85
2	つらい出来事があると耐えられない(※)		2.48	2.58
3	困難があってもそれは人生にとって価値があるものだと思う		4.25	4.05
4	自分の感情をコントロールできる方だ		3.76	3.42
5	慣れないことをするのは好きでない(※)		3.11	3.27
6	その日の気分によって行動が左右されやすい(※)		2.73	3.43
7	気分転換がうまくできないほうだ		3.73	2.68
8	ものごとに対する興味や関心が強い方だ		3.9	3.73
9	将来の見通しは明るいと思う		3.8	3.41
10	自分には将来の目標がある		4.01	4.24
11	新しいことや珍しいことが好きだ		3.99	3.98
12	私はいろいろなことを知りたいと思う		4.44	4.29
13	怒りを感じるとおさえられなくなる(※)		2.06	2.55
14	ねばり強い人間だと思う		3.73	3.56
15	あきっぽいと思う		3.13	3.28
16	自分の未来にはきっといいことがあると思う		4.08	3.86
17	新しいことをやり始めるのはめんどろ(※)		2.66	2.62
18	自分の将来に希望を持っている		3.97	3.97
19	自分の目標のために努力している		3.41	3.65
20	動揺しても自分を落ち着かせることができる		3.55	3.24
21	いつも冷静でいられるように心がけている		4.11	3.63

注：(※) 印は逆転項目

4 経験年数と養護教諭の精神的健康度

表3のとおり、経験年数別において変化が見られない項目は、「4. 自分の感情をコントロールできる」「6. その日の気分によって行動が左右されやすい」「5. 慣れないことをするのは好きでない」「2. つらい出来事があると耐えられない」の4項目である。ある経験年数のみ平均が高い項目は、4項目であり、「13. 怒りを感じるとおさえられなくなる」「14. ねばり強い人間だと思う」が経験年数5～10年未満、「15. あきつぽいと思う」が5年未満、「20. 動揺しても自分を落ち着かせることができる」が20～30年未満であった。経験年数が高くなるほど点数が多くなる項目は、逆転項目である「17. 新しいことをやり始めるのはめんどろだ」1項目のみであった。経験年数が低いほど点数が多くなる項目は、「1. いろいろなことにチャレンジするのが好きだ」「3. 困難があってもそれは人生にとって価値があるものだと思う」「7. 気分転換がうまくできないほうだ」「8. ものごとに対する興味関心が強い方だ」「9. 将来の見通しは明ると思う」「10. 自分には将来の目標がある」「11. 新しいことや珍しいことが好きだ」「12. 私はいろいろなことを知りたいと思う」「15. あきつぽいと思う」「16. 自

未来にはきっといいことがあると思う」の10項目、そのほかは、「19. 自分の目標のために、努力している」の1項目であった。小塩らが、因子分析によって明らかにしている3因子『新奇性追求』『肯定的な未来志向』『感情調整』で考えてみると、「1. いろいろなことにチャレンジするのが好きだ」「8. ものごとに対する興味関心が強いほうだ」など『新奇性追求』は、経験年数が高くなると平均値が下がる。すなわち、いわゆる意欲、自己啓発が低くなる傾向にある。『肯定的な未来志向』は、「10. 自分には将来の目標がある」「18. 自分の将来に希望を持っている」「9. 将来の見通しは明ると思う」の将来へのことに限定している項目も経験年数が高くなると平均値が下がる。方、『肯定的な未来志向』であっても、今現在のことを回答する「19. 自分の目標のために努力している」「14. ねばり強い人間だと思う」は、経験年数に関係ない。また、『感情調整』は、「4. 自分の感情をコントロールできる方だ」「20. 動揺しても自分を落ち着かせることができる」「6. その日の気分によって行動が行動左右されやすい」「2. つらい出来事があると耐えられない」は、経験年数に関係ない。

表3 経験年数別精神的健康度の比較

No.	尺度項目	経験年数	5年未満 (n=71)	5～10年 未 満 (n=47)	10～20年 未 満 (n=75)	20～30年 未 満 (n=118)	30年以上 (n=53)
1	いろいろなことにチャレンジするのが好きだ		3.89	3.8	3.61	3.54	3.51
2	つらい出来事があると耐えられない(※)		2.48	2.45	2.37	3.36	2.51
3	困難があってもそれは人生にとって価値があるものだと思う		4.25	4.2	4.04	3.97	3.91
4	自分の感情をコントロールできる方だ		3.76	3.94	3.79	3.62	3.81
5	慣れないことをするのは好きでない(※)		3.11	3.13	3.21	3.28	3.15
6	その日の気分によって行動が行動左右されやすい(※)		2.73	2.3	2.53	2.7	2.45
7	気分転換がうまくできないほうだ		3.73	2.11	2.4	2.55	2.57
8	ものごとに対する興味関心が強い方だ		3.9	4.02	3.73	3.63	3.64
9	将来の見通しは明ると思う		3.8	3.98	3.65	3.41	3.36
10	自分には将来の目標がある		4.01	4.21	3.68	3.7	3.62
11	新しいことや珍しいことが好きだ		3.99	3.98	3.92	3.61	3.6
12	私はいろいろなことを知りたいと思う		4.44	4.49	4.11	4.06	3.83
13	怒りを感じるとおさえられなくなる(※)		2.06	1.17	2.28	3.92	2.3
14	ねばり強い人間だと思う		3.73	4.17	3.64	3.56	3.66
15	あきつぽいと思う		3.13	2.36	2.75	2.59	2.68
16	自分の未来にはきっといいことがあると思う		4.08	4.32	3.91	3.77	3.68
17	新しいことをやり始めるのはめんどろだ(※)		2.66	2.51	2.72	2.93	2.94
18	自分の将来に希望を持っている		3.97	4.06	3.75	3.54	3.6
19	自分の目標のために努力している		3.41	3.74	3.61	3.44	3.72
20	動揺しても自分を落ち着かせることができる		3.55	3.74	3.71	4.36	3.57
21	いつも冷静でいられるように心がけている		4.11	4.2	3.99	4.01	3.89

注：(※)印は逆転項目

5 学校種別と養護教諭の精神的健康度

表4のとおり、『感情調整』である「4. 自分の感情をコントロールできる」「20. 動揺しても自分を落ち着かせることができる」は、幼児や児童に対応する幼稚園、小学校に勤務する養護教諭の平均が高くなっている。ま

た、『新奇性追求』である「17. 新しいこと困難があってもそれは人生にとって価値があるものだと思う」「21. いつも冷静でいられるように心がけている」も同様である。しかしながら「9. 将来の見通しは明ると思う」「10. 自分には将来の目標がある」「11. 新しいことや

珍しいことが好きだ」「12. 私はいろいろなことを知りたいと思う」「14. 粘り強い人間だと思う」「16. 自分の未来にはきっといいことがあると思う」「18. 自分の将来に希望を持っている」「19. 動揺しても自分を落ち着か

せることができる」「20. 動揺しても自分を落ち着かせることができる」「21. いつも冷静でいられるように心がけている」は、学校種には関係なく共通している傾向がある。

表4 学校種別精神的健康度の比較

No.	尺度項目	経験年数 ※ (n=195)	幼稚園 小学校 (n=97)	中学校 (n=97)	高等学校 (全日) (n=51)	高等学校 (定時制) (n=9)	特別支援 学 校 (n=12)
1	いろいろなことにチャレンジするのが好きだ	4.11	3.68	3.76	4.0	3.75	
2	つらい出来事があると耐えられない(※)	3.04	2.47	2.24	2.67	2.16	
3	困難があってもそれは人生にとって価値があるものだと思う	4.51	4.15	4.16	4.0	3.67	
4	自分の感情をコントロールできる方だ	4.21	3.84	3.74	4.0	3.67	
5	慣れないことをするのは好きでない(※)	3.15	3.3	3.22	3.56	2.58	
6	その日の気分によって行動が行動左右されやすい(※)	2.59	2.74	2.26	2.22	2.75	
7	気分転換がうまくできないほうだ	2.93	2.42	2.2	2.78	2.75	
8	ものごとに対する興味や関心が強い方だ	3.73	3.78	3.84	4.22	3.75	
9	将来の見通しは明るいと思う	3.6	3.53	3.74	3.78	3.58	
10	自分には将来の目標がある	3.79	3.61	3.80	3.89	3.83	
11	新しいことや珍しいことが好きだ	3.74	3.91	3.7	4.0	4.08	
12	私はいろいろなことを知りたいと思う	4.16	4.17	4.22	4.33	4.0	
13	怒りを感じるとおさえられなくなる(※)	2.69	3.12	2.34	1.78	1.83	
14	ねばり強い人間だと思う	3.68	3.67	3.88	3.33	3.75	
15	あきっぽいと思う	2.65	2.88	2.54	3.11	2.83	
16	自分の未来にはきっといいことがあると思う	3.92	3.88	4.0	3.89	3.92	
17	新しいことをやり始めるのはめんどろうだ(※)	3.04	2.47	2.24	2.67	2.17	
18	自分の将来に希望を持っている	3.83	3.76	3.88	3.67	3.92	
19	自分の目標のために努力している	3.52	3.44	3.74	3.78	3.92	
20	動揺しても自分を落ち着かせることができる	3.94	3.84	3.78	3.89	3.5	
21	いつも冷静でいられるように心がけている	4.5	4.05	4.12	3.89	4.17	

注：(※) 印は逆転項目

※幼稚園2名含む

6 保健主事発令の有無と精神的健康度

下記の項目に有意に差がみられた。

表5のとおり保健主事発令の有無については、精神的回復力尺度21項目中、3項目に有意に差がみられた。3つの項目において、保健主事の発令の有無ともに、精神

的健康度の傾向に大きな差はなかった。「1. いろいろなことにチャレンジするのが好きだ」「4. 自分の感情をコントロールできるほうだ」「20. 動揺しても自分を落ち着かせることができる」はいずれも精神的健康度が高い。

表5 保健主事発令の有無と精神的健康度の比較

	項 目	発令有	発令なし
1	いろいろなことにチャレンジするのが好きだ	3.57	3.68
4	自分の感情をコントロールできる方だ	3.64	3.82
20	動揺しても自分を落ち着かせることができる	3.88	3.82

t 検定：p<0.05

IV 考察

「養護教諭の精神的健康度」における現職養護教諭及び教員養成大学学生の質問紙調査結果から、その傾向が明らかになった以下のことについて述べる。

1 教員養成大学学生の精神的健康度

「4. 自分の感情をコントロールできる方だ」「20. 動

揺しても自分を落ち着かせることができる」「9. 将来の見通しは明るいと思う」「21. いつも冷静でいられるように心がけている」は、教員として身につけなければならぬ資質であることは言うまでもない。現職の養護教諭に比べ、職に就く前の学生が低いこと、加えて、5年未満の養護教諭と傾向が似ていることから教員として経験から培われていくものであると考えられる。また、これから教員になるという確固たる目標があること「10. 自

分には将来の目標がある」の結果からも確認ができる。

方、逆転項目である「7. 気分転換がうまくできないほうだ」「6. その日の気分によって行動が左右されやすい」「15. あきっぽいと思う」「13. 怒りを感じるとおさえられなくなる」も経験とともに培われていくものと推測される。

2 現職養護教諭の精神的健康度

全国で4万人の養護教諭が、小、中、高、特別支援学校等に配置されているが、多くは女性であり、最長40年の期間を精神的に同じ状態を保つのは、容易ではないことが推測される。

中山は、〈女性職〉の時代によると、女性職とは、女性だけに限定された職という意味ではなく、女性の強みや特性を考えた場合、一般的に男性と比べて女性の方が活躍しやすいであろう仕事の総称だと述べている¹⁴⁾。そこには、小学校教諭や看護師キャピアテンダントがあげられている。養護教諭も長い間圧倒的に女性が多く従事してきた女性職の象徴的な仕事といえるのではないかと考えられる。例として挙げた職業に共通することは、人と人との関わりが仕事の大部分を占めるといえる点にある。

本調査結果である経験年数が高くなるほど点数が多くなる項目は、逆転項目である「17. 新しいことをやり始めるのはめんどろだ」や『肯定的な未来志向』は、「10. 自分には将来の目標がある」「18. 自分の将来に希望を持っている」「9. 将来の見通しは明ると思う」の将来へのことに限定している項目も経験年数が上がるに従い、精神的健康度が下がることから、養護教諭の健康度を維持していく手立てを講じる必要があると考える。

また、『感情調整』である「4. 自分の感情をコントロールできる方だ」「20. 動揺しても自分を落ち着かせることができる」「6. その日の気分によって行動が行動左右されやすい」「2. つらい出来事があると耐えられない」は、経験年数には関わらず、教員として専門職としての気構えがうかがえる。

3 経験年数と養護教諭の精神的健康度

経験年数が低いほど点数が多くなる項目は、「1. いろいろなことにチャレンジするのが好きだ」「3. 困難があってもそれは人生にとって価値があるものだと思う」「7. 気分転換がうまくできないほうだ」など11項目など、新任養護教諭においては、当然のことながら初めての経験が多く戸惑いが多くあることは推測できる。本研究者は、2010年3月に、すでに、新任から5年目までの経験の養護教諭に対しては、勤務校という最も身近な『周囲のサポート』が管理職や保健主事さらに、経験が豊富な先生方からの適切なアドバイスで、養護教諭にとって解決が困難な出来事を終息できる傾向があることを明らかにしている¹⁵⁾。また、経験が浅いからこそ、組織の員として仕事を始めることへの喜びが実感できる『仕事の

満足度』は、困難なことを解決できる力や経験となることが明確となった。

管理職や保健主事など周囲のサポートがある新任から5年目までは、職場の人間関係による悩みストレスは少なく、赴任と同時に始まる健康診断などの実施運営についても多くのサポート（支援）を受けている可能性が考えられる。

また、養護教諭の経験とともに「17. 新しいことをやり始めるのはめんどろだ」という結果は、経験による先を見通した結果、あるいは、実践をすでに重ねてきたことから現状に満足しているかは本研究からは明らかにされていない。

4 学校種別と養護教諭の精神的健康度

学校種別にみると、幼児や児童に対応する幼稚園、小学校の養護教諭は、「感情調整」に努力していることが浮かび上がった。「モンスターペアレント」の存在の報道がされたが、子どもの年齢が低く核家族化やそれぞれの家庭の子どもの人数が少なくなればなるほど、保護者の目が集中することも考えられる。また、特別支援学校の養護教諭が、「慣れないことでも好きだ」という結果から特に、個々の健康課題が多様化している特別支援学校の養護教諭の特性が表れていると考えられる。

中学校で「13. 怒りを感じるとおさえられなくなる」の項目が他の学校種に比べると高くなっている。中学校における健康課題の多様化がここでも推測できる。高等学校の定時制では、「8. ものごとに対する興味や関心が強い方だ」が高くなっている。様々な環境の中で登校している個々の生徒への対応には欠かせない資質なのである。

5 保健主事発令の有無と養護教諭の精神的健康度

保健主事は、昭和33年学校保健法の公布施行に際し、学校教育法施行規則一部改正により文部省がその常置を規定した職務である¹⁶⁾。平成7年の法改正により「保健主事は、教諭又は養護教諭をもって充てる」とされた。本研究の養護教諭の保健主事発令率は、12.4%であった。

また、本研究では、保健主事発令の有無と精神的健康度には、ほとんど差はみられなかった。つまり、学校保健におけるミドルリーダーとしてマネジメントの期待が寄せられている保健主事は、養護教諭の職務とは別に、プラスされた仕事であり、そのことは精神的健康度に影響を与えるストレス要因となっていないことがうかがえる。

6 研究の限界

職場以外のストレス要因は、家族問題が多くを占めていることが推測できる。しかしながら、職場の問題は比較的均一であることに対して、職場以外の問題は、その個人差があまりにも大きく多様化しているため、本研究

では扱っていない。本研究は、「精神的回復度尺度」の調査結果のみを分析したものであるため、その内容には限界がある。今後「抗うつ度についての評価」「ストレスコーピング特性」「職業性ストレスについての評価」の3つの尺度の結果を考察し、養護教諭の精神的健康度について構築していく。

V 結 語

本研究では、養護教諭の精神的健康度を「精神的回復度尺度」の調査結果から専門職としての養護教諭として普遍的なものとして、日頃から感情の調整に心がけていることと、方では、経験年数を重ねると未来へ向けた希望や目標達成など小塩らがいう『肯定的未来志向』が軽減していくことが確認された。

本研究は、独立行政法人日本学術振興会 平成21年度科学研究費（奨励研究）課題番号 21906005の助成による研究成果の一部です。

引用文献

- 1) 西坂小百合 幼稚園教師のストレスと精神的健康度に及ぼす職場環境、精神的快復力の影響 p91
- 2) 保坂 亨 学校を休む 児童生徒の欠席と教員の休職 学事出版 2009 p88
- 3) 松崎一葉 もし部下がうつになったら 携書 p24
- 4) 笹原信一郎 筑波研究学園都市における職員のメンタルヘルスに関する予防医学的研究2003 p11
- 5) 文部科学省 子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体として取組を進めるための対策について 中央教育審議会答申 2008
- 6) 文部科学省 学校保健安全法 2009
- 7) 小学校保健計画実地要領 文部省 1951 p25
- 8) 吉野、友常、谷口他 研修医の適正な労務管理に関する研究～限界の長時間労働及び職業性ストレスが研修医のパフォーマンスに及ぼす影響～ 産衛誌 48巻 2006 p326
- 9) 横山さつき 消防職員の精神的健康度に関する要因についての検討 日本看護科学会誌 30巻 2号 2010 p64 73
- 10) 労政時法 第3736号 2008 p69 78
- 11) 鈴木邦治他 学校経営と養護教諭の職務（IV） 養護教諭のキャリアと職務意識 福岡教育大学紀要 第48号 1999 p23 40
- 12) 小塩、中谷、金子、長峰 ネガティブな出来事から立ち直り導く心理特性 精神的回復度尺度の作成 カウンセリング研究 35 p57 65
- 13) 中島一憲 養護教諭の心のケア 月刊生徒指導 1996 12月号 p60 p64
- 14) 中山美紀 〈女性職〉の時代 角川書店 p47
- 15) 上原美子 養護教諭の自己啓発を支援するプログラム開発に関するアクションリサーチ（第1報） インタビュー 調査の結果から 学校健康相談研究 vo16 No.2 2010 p52 53
- 16) 学校保健ハンドブック 教員養成系大学保健協議会 2009 p20